数式処理 *Bulletin of JSSAC (2010)*
Vol. 17, No. 1, pp. 1 - 1

巻頭言

ちょっと隣へ

齋藤友克

日本数式処理学会会長

学会の活動をしていると,「日本数式処理学会は何をやっているのですか」とよく聞かれます．設立趣意書には「数式処理を媒介として結び付いた多数の研究者・応用技術者・利用者からなる学会を設立し，研究発表・意見交換・情報授受・共同研究企画等の場を共有する意義は，上記の理由から，非常に大きいと思われる．さらに，数式処理教育・普及の主体であり，国内外の研究機関あるいは産業界との交流の中核となる組織を持つ意味は決して小さくない.」と高らかに宣言したのですが，一般にはまだまだ伝わっていないと思われます．まあ我々の努力が足りないと言われればその通りです.

お話をよく聞くと学会が世間によく知られていないと言うより，数式処理という学問分野が世間に知られていないと言う方が正しいかもしれません．なぜなら通常説明の後に，ああ数学の研究ですかと言われます．数式処理は，数学の一分野と解釈することも可能ですが，そうだと言い切ると実は，日本数式処理学会の存続意義が薄れます．数式処理にとって，数学は道具の 1 つです．もちろんアルゴリズムや数式処理理論の研究は数学に立脚していないければ意味はありません．しかし，数式処理の意味する所はシステムの実装，その利用法まで含んだより広い分野です．もちろん会員の皆様が全ての分野に精通しているわけではありませんし，まただれもそれを期待しておりません．しかし，複合的な分野であることは常に認識していただきたいと願います.

学会は，この数年来分科会を設立しよりきめ細かい情報の発信に努めてきました．しかし，参加者が固定しているようにも見受けられます．ぜひ皆様には，周辺領域の研究にも興味をお持ちになって参加されることをお願いいたします.

数式処理は複合分野です，この複合分野がどの方向に行くかは参加する皆様にかかっております．以外におもしろかったり，現時点でやっている事に参考になる意見が間々でます．研究は孤立してはできません．知識を共有し，議論をする場を提供することは学会の基本的役割です．しかし，皆様が参加されなければ宝の持ち腐れとなります．最初は戸惑うかもしれませんが，ちょっと隣に行く気持ちで，ぜひ主たる活動の場から異なる分科会に参加される事をお願いいたします.

© 2010 Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation